富山・小出城跡

1　所在地　富山市水橋小出

2　調査期間　二〇〇四年度調査　二〇〇四年（平16）七月～九月

3　発掘機関　富山市教育委員会埋蔵文化財センター

4　調査担当者　鹿島昌也・稲垣裕二

5　遺跡の種類　城館跡

6　遺跡の年代　安土桃山時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

小出城は富山市の東北部、水橋小出地内の小出神社周辺にあったと伝えられている平城である。天正九年（一五八一）三月、小出の戦いで織田信長方の佐々成政と越後上杉景勝方が戦火を交えた際、織田方前線基地として史上に登場する。

二〇〇一年度の試掘調査では、小出神社周辺で幅一〇mの堀跡を確認し、二〇〇三年度調査区（小出神社から約一五〇m北側）では、東西方向に延伸する幅約一〇mの堀跡を確認した。

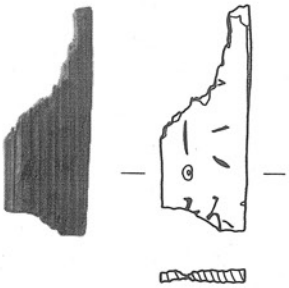
今回の発掘調査は、前年度に引き続き県道拡幅工事に伴うもので、約二六〇㎡を対象とした。その結果、前年度検出した東西方向の内堀SD〇一がほぼ直角に北に向かって延伸することを確認した。また、内堀SD〇一の約三五m東側で、南北方向に延びる幅約七mの外堀SD〇六を検出した。外堀からは、鶴丸などの文様が描かれた漆器、鉛玉、焼痕のある珠洲焼や石などが出土した。この外堀は周囲の遺構（井戸）の検出状況からみて、上部が大きく削平されており、本来は幅一〇m前後の規模があったと推定される。このように、小出城域は史料から窺える規模をはるかに上回る可能性が出てきた。

木簡は、外堀SD〇六が埋没した後にできた浅い窪地状遺構SX〇一から、珠洲焼（壺、擂鉢）、香炉に転用したと考えられる漆器、青磁、木片など中世後期の遺物とともに出土した。

8　木簡の釈文・内容

(1)　□に□　(50)×15×3　081

上下両端ともに欠損し、左下に釘孔のような孔が確認できる。裏面は不鮮明なため文字の有無は判別できない。

（稲垣裕二）

（魚　津）